

印刷編輯人 川崎文治

福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
發行所 常盤毎日新聞社

電話百四十番

一、部金貳錢 廣五貳十二休 日曜大祭
二、部金貳錢 廣五貳十二休 日曜大祭
三、部金貳錢 廣五貳十二休 日曜大祭

刊夕日四月一十

第一回課吟發表

平吟社同人互選

△ 鎗

六點句 熊を獲て戻る夕陽に長い鎗 一角

鎗玉に擧る氣骨のある男 狂水

五點句 兒童劇スラツキ程の鎗を持ち 新坊

四點句 賣立に家寶の鎗も列べられ 新坊

鎗玉に擧つて主義者名が賣れる 東天紅

三點句 飛ぶ鎗へ選手一揃に行く姿 空笑

勢 横槍を入れ々々唾へ煙管が 不州坊

出 世が世なら鎗一筋の使丁な 東天紅

り 二點句 世が世なら鎗一筋の御家柄 獸尊

鎗玉に擧げるつもり二級 一角

飛び 舊家てふ誇り長押の長い鎗 全

槍の柄を芋掘りの柄にすげ替へる 獨人山

一點以下省略

美味で評判の
遠藤パン
(平驛前)

今秋の流行品

中折帽 一圓八十錢ヨリ
サシ帽 二圓ヨリ
鳥打帽 三圓五十錢マデ
子供帽色々
最新式豊富ニ揃マシタ

警城平町
に鶴屋
電話百四十番

建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種

平町四丁目
大音堂

今冬の流行品が

「澤山揃ひました」
「實用的で經濟的」
「ガクセイ」も服

澤山揃ひました
一年生用 三〇八〇〇
二年生用 四〇〇〇〇
三年生用 四四〇〇〇
四年生用 四八〇〇〇
五年生用 五二〇〇〇
六年生用 五六〇〇〇
警城平(電話二〇三番)
なかや洋服店

こゝに於て、問題は國家として新たに此の資金の充實を計るべく如何なる方策を執るべきかと云ふ點に歸着する

隨筆

農村振興には資金の充實が肝要
我國富強の根本義
長橋野人
承前……

さて之れが参考に供し、以つて其の成案を得る事も一策であらう

只そう云ふ具体案は今日の農會のやうな機關に依つてのみ考へられては到底萬全の策を期されない、もつと深刻に眞に農村の産業資金

農村問題の
寄書を求む

近來農村振興の問題は各方面に喧ましく論せられ現政府も是れに對して何等かの方途を講せんとして種々攻究中のものゝ如くである、平町の如く炭礦を除いては農村を唯一の顧客とし常に

密接不離の關係を保たねばならぬ土地に於ては其の盛衰は直ちに至大の關係を有するが故に同問題に關し廣く諸君の寄稿を求め輿論の喚起に努めたいと思ふ

をば充實せしむるその事は我國の富強の根本である事に見地を置いた熱のあるものでなければならぬ

之れ等の點に關しては之又政黨政派を超越した國家の重大問題として國家の財能を擧げて着手さるべきものでなければならぬと信じて疑らない (完)

建築材料

警城セメント 樽入 袋入
板ガラス 各種
壁用材料 各種
ペンキ塗 各種

警城セメント株式會社代理店
西村屋藥舖
平町二丁目 電話四三番

入院隨意
小兒科
皮膚科
花柳病科

田城山(舊城跡)三の丸
青沼醫院
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

萬年瓦

萬年瓦工業株式會社
福島縣四倉町
電話三八番

鐵道省 御指定
仙台高等工業學校 試驗證明

時計見習生入用

御希望の方は御来店願ひます、退店後にはすぐ様獨立營業の出来る様毎月貯蓄待遇法が付いて居ます……早い勝ち

平町壹丁目
常盤屋時計店

時計貴金屬裝身具
各種眼鏡即時調製
蓄音器レコード各種

株式買中値

電話に金融致し

銘格	拂込	時價
警城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
警越銀行	一一五	一〇五
警城實業	五〇〇	四二〇
警城實新	三〇〇	二八〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二五〇
同 新	一五〇	一九〇
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
同 新	一一五	九八
同 新	五〇〇	四二〇
同 新	二五〇	一九五
同 新	一一五	七五
植田水電	一一五	一五五
好問水電	一一五	一三〇
警城建物	一一五	一五〇
警城製菓	二〇〇	二五〇
平信託	五〇〇	二五〇
警城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製水	二五〇	一八〇
好問軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一八〇
警城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	三二五	一八〇
警城セメント	五〇〇	六二五
同 新	三二五	四二〇
平運送	一一五	八〇

丸登株式店
川添房二郎

明年から尺貫法は 小國民の世界から 絶對に姿を消す

平町でもメートル法教授

今から廿年後には全國民誰れでもメートル法を使用せねばならぬ事になったが其時にマゴつくやうではいけないと平第一、第二兩小學校でも明年からは是れを教授する事となり

従つて今迄何里何町或ひは何尺何寸とか貫匁、升合等我邦古來の度量衡制度は小國民の世界から明年以後絶對に姿を消す譯である右に就き曾我第一小學校長は語る「明年は尋常一二年用の國定教科書と五、六年用地

運は天に在り おとなしく首の座に 郡役所廢合問題で

遠藤上席が淋しく語る

政府に於ては行政整理の爲め大々的の緊縮を斷行する上から全國の各郡役所を併合又は廢止せんとする意圖が略ぼ確定になつて來たので石城

郡役所等

でも所員が幾分業を衰やし仕事も眞剣になつて手に着かぬ模様だが極めて樂天的な性格である遠藤上席書記等も「イヤア、先頃は新聞等を見ても國家天下の大問題の記事等は餘り眼をひかずに笠の台がどうなるかと行政整理や郡役所廢合問題は特に

も出来ないから此通り念入りに書類に判を押す事だけは忘れない積りだ」と淋しく笑つた

水野郡長の

ハラは定る

土地分轄に 石城郡平窪村と下小川村との共有入合地百廿餘町歩に亘つての分轄問題は多年兩村に於て頑強に主張を交し

郡下青年熱辯を揮ふ

磐中辯論部主催の 第四回聯合雄辯大會

磐中學校辯論部にては雄辯熱を鼓吹し且つ堅實なる思想培養の一助として來る廿九日午前九時から平劇場於て第四回郡下青年學生聯合雄辯大會を開催する筈であるが當日は特に音楽演奏等も試みられる由で辯論選手は廿日迄に主催側宛申込まれたしと

天々連活躍

無事に頭割り



家庭欄

平窪友會の天狗連は腕によ近頃は人造絹糸が盛んに用ゐられてゐます。人造絹糸は純絹に比べ、光澤が非常に強く、しかもその光が表

人造絹の見分方

近頃は人造絹糸が盛んに用ゐられてゐます。人造絹糸は純絹に比べ、光澤が非常に強く、しかもその光が表

自宅前の 小川に轉落

幼女の溺死

石城郡内郷村大字白水字蛭内農八十八孫大越トモ(三)は二日午前十一時頃自宅前にて遊んで居たが誤つて白水川に墜落溺死した

學童無電見學

石城郡本小學校にては去る一日五六年生徒百八十名が小名濱に至り工事中の無線電信や測候所を見學したと

不平受付

磐女の運動會 自分は今日の磐城高女の運動會を見に行つた處が入場券が無いとて斷られた、失望したのは自分ばかりではなかつた一体運動會は何んの爲め開くのか櫻井校長の明答を氷める (体育生)

觀音經の提唱

平禪學會にては五日午後六時

から磐城銀行樓上にて栗山老師の觀音經の提唱ある筈である題目は生死訓である

常磐片々

郡役所廢合問題で遠藤上席郡書記の談、秋の日だけに物の哀れが一層イヤ勝る

來春四月 勸業博を催す

平町に於て

來春四月の候を期し平町俠政會が主催となり國產獎勵勸業博覽會を催す由であるが其の趣意書は左記の如くである

募集

文藝其他投稿

大正十二年九月一日有史以來の一大慘害を遭遇し東洋文化の中樞たる殿堂も一朝にして槿花一露に消えたり巖然として世界に君臨すべき使命を有する帝國は内外多事の現局となり今我々七千萬國民は打つて一丸となり、臥薪嘗膽捲土重來の努力を驅つて世界的經濟戰に覇者たらんとす昇天旭日の氣

詔書寫し下附

石城郡草野村私立小林裁縫女學校にては這般縣當局に國民精神作興詔書の寫しの下附願を提出中であつたが三日附交附された

坑夫長屋増設

磐城炭礦及び入山炭礦にては古河炭礦の失業坑夫を夫々收

平町人事

出生

▽五丁目 野澤金一郎氏長男芳男
△田町 佐藤正教氏四男利夫
△紺屋町 舟山政助氏五男忠四郎

婚姻

△白銀町 大關吉兵衛氏(三四)石城郡大浦村大字大森吉市フソノ
△南町 高橋山三郎氏(二四)石城郡野田村木田マサヨ(一七)
△南町 田村英顯(二四)野田岡野
東郡原町鈴木千代(二二)

死亡

△南町吉村慎子一ツ